こども病院広報誌

茨城県立こども病院だより

令和４年９月30日　第54号

表紙写真：新生児救急車（ラッコ号）

指定管理者　社会福祉法人恩賜財団 済生会支部茨城県済生会

新型コロナ第７波の影響　病院一丸となって対応

病院長　新井　順一

現在執筆中（８月下旬）において、オミクロンBA５による第７波が猛威を奮っております。新型コロナ発生から２年半が過ぎましたが、当院にとっても第７波の影響は甚大で、病院一丸となって診療機能を維持している状況です。本年７月後半から救急外来患者と救急車受け入れが急増したことにより、特に夜間救急に多くの人手を要し人員確保は大変苦しい状況です。当院は、保健所等からの新型コロナ電話相談にも対応をしており、そちらの負担も大きいことに加え、救急外来の感染外来と一般外来が離れている非効率性も加わり、どうしても人手不足になってしまいます。当然、入院患者も今までになく増えており、看護体制見直しなど多くの面で課題をかかえつつ、状況に応じて対応しています。小児科の集約化も進んだ影響もあり、県央における当院の２次、３次救急の責任は大きく、スタッフの欠員が増えても救急外来を縮小やストップすることはできません。この事態を受け、水戸市医師会は緊急の休日夜間診療所運営委員会を開催してくださり、新型コロナ検査を再開していただきました。水戸市にも大変な負担をしていただき感謝しております。

この第７波を乗り越えるには、病院職員全員の協力が必要となっています。夜間の対応には、当院事務職員が問診対応などを担当してくれることとなり、大きな助けとなっています。院長としては、大変うれしかったものの、50歳以上の職員に夜間の応援していただくことは健康面で不安でした。幸い、深夜の患者が減少し夜間は準夜のみの応援となりました。予定手術の延期や看護師の途中採用なども行いました。職員の欠員も増えておりますが、体調不良時の出勤停止を徹底している効果か、幸い院内クラスターは発生しておらず、なんとか病棟機能も維持できています。

第４波までは小児の感染者は少なく、徹底した感染対策などにより他の感染症も減少し、救急外来は新型コロナ流行前に比べ減少していました。そういった事情もあり、成人患者に対応する総合病院の新型コロナ対策に比べると小児病院の設備上の対策は小規模でも対応できていました。しかし、オミクロン株、特にBA５の流行によりワクチン接種率の低い小児感染者が急増し新型コロナの小児科領域における重要性は急激に上昇し、今更ながら設備面を含めた見直しが必要と考えています。

新型コロナやその他の感染症との闘いは今後も継続するものと考え、ICUの一部陰圧室化、感染外来の見直し、地域医療機関や行政との連携強化など当院の感染対策の更なる向上が必要と考えております。

小児消化器肝臓科

医長　齊藤　博大

小児の消化器疾患は、口腔・食道・胃・腸・肝臓・胆道・膵臓さらに栄養領域、また成人期へ移行する慢性疾患もあり、非常に幅広い領域です。また色々と専門的な検査が必要です。こども病院の小児消化器肝臓科では、新生児期から青年期まで、あらゆる消化器・肝臓疾患に対応しています。消化管疾患、肝胆膵疾患、栄養指導が必要な疾患に対して超音波検査・消化管造影検査・消化器内視鏡検査などを行い、診断・治療をしています。

このように全ての小児消化器疾患を系統的に診察・加療することができる小児病院は、実は、全国的にも少ない状況です。しかし茨城県では、小児消化器肝臓疾患のほとんどを当院または筑波大学小児科で診断・治療しており、両施設の小児消化器肝臓グループは連携して診療・治療を行っています。

当院の小児消化器肝臓科にご紹介いただく患者さんの主な訴えは以下の通りです。

〇腹痛、嘔吐、便秘、下痢、誤嚥

〇肝・膵機能異常（ALT やアミラーゼ高値など）、黄疸、肝炎予防とワクチン

〇栄養指導の必要な疾患（肥満、やせ、離乳、体重増加不良、経管栄養、経静脈栄養、特殊ミルクの必要な疾患や家族性高コレステロール血症など）

当院小児消化器肝臓科の大きな特徴としては全国でも数少ない内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）・内視鏡での胆管・膵管への処置・治療ができる施設であり、上部消化管内視鏡検査（EGD）・大腸内視鏡検査（CS）・小腸カプセル内視鏡検査を施行しています。

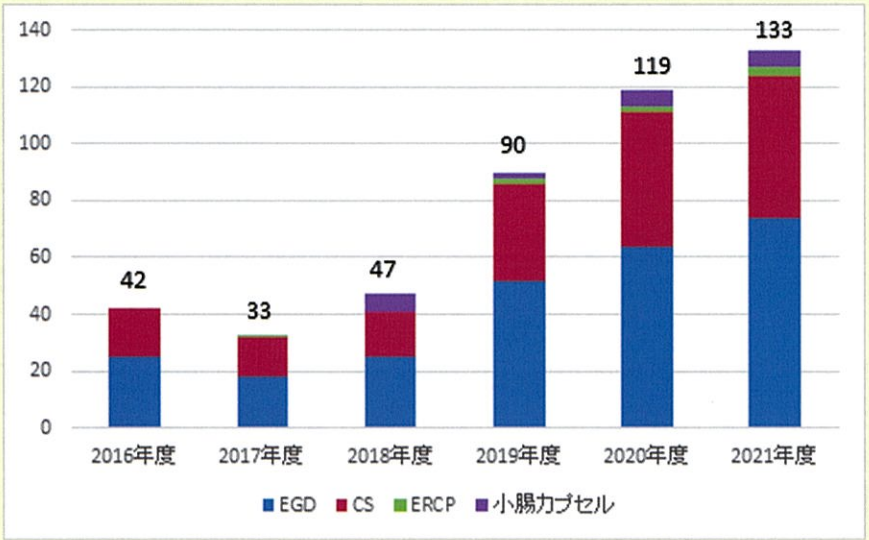
具体的には、原因不明の腹痛・嘔吐や血便の精査として内視鏡検査を年齢問わず施行しており、年々、増加傾向（図、参照）です。もちろん、全例で行うわけではなく、侵襲的な検査の前に、必ず全国有数の診断レベルにある腹部超音波検査を行い、厳密に適応を見定めた上で、積極的に消化管内視鏡検査を行っています。

また、当科では小児外科と積極的に共同診療を行っています。例えば重症便秘症や術後内視鏡・治療内視鏡・腹腔鏡下肝生検など治療・検査を協力して行っています。

救急診療においても、異物誤飲などの対応も迅速かつ安全に行っており、消化管内視鏡による異物摘出も当科で遅滞なく行っています。医療的ケア児・重症心身障がい児の経管栄養管理（胃管、十二指腸チューブ、胃瘻など）も連携して行っています。

多職種連携も重要です。最近ではこのコロナ禍において心身の不調を訴える小児が増えてきています。それに伴い、過敏性腸症候群や明らかな器質的疾患が認められない腹痛なども増えてきており、当科を中心とし多職種で協力しながら診断・治療にあたっています。

このように当科ではさまざまな小児消化器疾患を診療しております。今後とも精進し、地域の小児消化器診療にひきつづき貢献していきたいと考えております。いつでもご相談いただき、ご紹介いただければ幸いです。あらためまして今後ともよろしくお願いいたします。



【当院での消化器内視鏡検査件数の推移】

植栽活動についてのご紹介

施設管理課　菅野谷　和也

病院の療養環境の向上のため、環境美化委員会では、例年春と秋の年２回植栽の植え替え活動を実施しています。

水戸市植物公園の協力を得ながら、ボランティアスタッフである花ふる応援隊の方々とこども病院職員が協力して植栽の植え替え活動を実施してきました。

昨今のコロナ流行に伴い、令和２年度は残念ながら、植栽活動を見送りましたが、令和３年度秋から、水戸市植物公園スタッフおよびこども病院職員に参加者を限定する形式で植栽活動を実施しています。

酷暑の中でもけなげに花をつけている植栽を見てもらい、患者さんやご家族に元気になってもらいたいと願っています。

階段室のアートプロジェクトについて

総務課　大髙　健一郎

当院では筑波大学芸術系の皆さんと協同し、患者さんの療養環境改善の一環として院内のアートプロジェクトに取り組んでいます。このワーキングプロジェクトは平成26年４月から始まり、患者さんからのご意見や職員の気付きを基に、院内の環境をより良いものとなるよう、装飾や家具の整備等を進めてきました。

令和３年度の改善箇所は１号棟階段室となり、一年を通して取り組んできました。昨今のコロナ流行に伴い、昨年度中に実施予定であった作業も延期となる等、予定通りにならないこともありましたが、ワーキングメンバーだけでなく職員や患者さんにも参加していただき、無事に完成することが出来ました。

当院にお越しの際は令和２年度に実施した２号棟階段室の装飾とあわせてご覧ください。

カスミオフィスマの導入について

（オフィススマートショッピング）

経営企画課　内田　有香

職員の福利厚生事業を目的とした、オフィス向け無人店舗（株式会社カスミ）を、院内職員エリアに設置しました。これにより職員は、24時間スマホひとつでお買い物が可能となりました。

当院は、医師・看護師をはじめとする医療従事者が24時間365日院内で勤務することで、体制を確保していますが、救急医療に対応する医師は、時間外での診療を余儀なくされています。このような勤務環境において、以前から夜間における食料の確保手段について医師から要望されていました。

隣接のコンビニエンスストアやコーヒーショップ、院内食堂は、夜間に閉店し翌朝まで開店しないため、その間食料の調達手段がありません。これまでも、コンビニエンスストアに夜間帯における弁当の無人販売の要請や、宅配による食品提供サービスの導入、食品自動販売機の設置などの検討を行ってきましたが、経費面での折り合いがつかない、提供業者がいないなどの理由により、断念してきました。

念願の導入となり、利用した職員からは、急な夜間勤務時における食糧調達の心配がなくなった、便利な場所にあるため小腹が減ったときに気軽に利用できるなどの意見がある一方で、常温での販売や商品に対する要望などで改善の難しい意見も出ております。

この事業が定着し、少しでも職場環境の改善に役立つものになることを期待しています。

昨年度もたくさんのご寄附を賜り厚く御礼申し上げます。

当院では、企業・団体や個人の皆様に善意のご寄附をお願いし、こどもたち用の図書・玩具の購入や病院内学級の整備など病児の療養環境の向上を図ると共に、健康保険外の先端医療の推進を行う活動を積極的に展開しております。

2021年度　寄附金一覧

寄附者名	金　額
ライオンズクラブ国際協会 333-E地区 様	212,974円
KDDI株式会社 様	120,000円
株式会社ブリッジ 様	100,000円
株式会社ヤマイチ 様	1,000,000円
マニュライフ生命保険株式会社 様	100,000円
横浜幸銀信用組合 様	500,000円
土田 昌宏 様	1,000,000円
外　企業　2件、　個人　8名	3,327,717円

2021年度　寄附物品一覧

寄附者名	寄　贈　品
水戸東ロータリークラブ 様	図書カード　50,000円分
エイビス 様	玩具一式
あみもんどころ 様	あみぐるみ　120個 ぬいぐるみ　20個
骨髄バンクを支援するいばらきの会 様	ぬいぐるみ　162個
がんの子どもを守る会 様	玩具　102個
フレーベル館 様	絵本　63冊
パルサポートキッズの会 様	医療用帽子　43枚
日本出版販売株式会社 様	絵本および児童図書　146冊
外　企業　4件、個人　8名	車椅子、バギー、図書 等

当院では皆様に広く善意のご寄附をお願いしております。
皆様の格別のご理解とご支援をお願いいたします。

窓口
経営企画課　（連絡先）029-254-1151　内線 9213
寄附担当　（E-mail）ich-kifu@ibaraki-kodomo.com

医療秘書室

●医師事務作業補助者とは？

医療現場において医師の業務負担の大きさが長年問題視され、医療の質の担保が重要課題とされてきました。医師が行っている事務的業務の負担を軽減し、診療業務に専念できる環境を作り、医療の質を向上させることを目的として2008年に医師事務作業補助者は誕生しました。当院では医師事務作業補助者の呼称を医療秘書とし、同年に２名を配置してスタートしましたが、2011年に電子カルテが導入されてからは業務が格段に増加し、現在では内科系４名、外科系４名、計８名が業務に従事しています。

医療秘書は医師の事務的業務をサポートし、医師の負担軽減および医療の質向上に貢献する大切な役割を担っており、さらに、事務スタッフでありながら医療現場で活躍できる職種です。当院においては、①外来診療補助、②書類作成の２つの業務を主に行っています。

１．外来診療の補助

各診療科の外来に陪席し、患者さんの呼び込みのアナウンスから始まり、各種検査の予約・オーダリングの代行入力、検査の説明・案内、次回診察の予約、外来処置料・指導管理料の算定入力などを行います。また、医師がスムーズに診察を開始できるよう、事前に初診の患者さんの紹介状・問診表をまとめた診療録の代行入力なども業務の１つとなっています。

２．書類作成

全診療科の診断書・証明書・意見書、訪問看護指示書、紹介状への返書、レセプトの症状詳記などを仮作成し、医師に確認して追記・修正しています。

３．その他

各種症例登録、各種統計・調査のデータ整理、会議の議事録作成、医師の勤怠管理入力など、多岐にわたる業務を行っています。

現在の医療秘書のほとんどが医療現場での経験がなく入職していますが、業務を円滑に行うためには診療科ごとの医療用語・薬剤名・略語などを理解する必要があり、専門的な知識の習得が不可欠です。自己学習に加え、土田名誉院長に御指導いただいている研修プログラムに参加して知識を深めています。

また、医療秘書は多職種と連携して業務を行うため、柔軟な対応や周囲に対する気配りなどのコミュニケーション能力が必要とされます。顔の見える関係を作り、病院の全体像を理解することが、普段の業務での連携や支援に繋がると考えています。

●医療秘書室室長より

外来診療におけるサポートや診断書などの書類作成といった医療秘書の業務によって我々医師の事務的業務が大幅に軽減しており、ひいては外来での患者さんの待ち時間が短縮する、医師が患者さんと向き合う時間が増加して十分な診察・説明が行える、患者さんに診断書などをお渡しするまでの日数が短縮するなど、患者サービスが大きく向上しています。医師にとっては医療秘書の補助なしの業務は考えたくないくらい恩恵を受けていますが、病院にとっても患者さんにとっても医療秘書は必要不可欠な存在になっています。

企画編集　茨城県立こども病院広報委員会
〒311-4145 水戸市双葉台 3-3-1
TEL 029-254-1151　FAX 029-254-2382
URL http://www.ibaraki-kodomo.com/

発行責任者　茨城県立こども病院
病院長　新 井 順 一